

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：川口市立安行小学校子どもエコクラブ

26A-14

代表者：代表 菊次 哲也

URL : <https://angyo-e.sakura.ne.jp/>

1. 活動が必要とされた状況

安行小子どもエコクラブでは、安行小校内の学年園をお借りして、田んぼや畑づくりをしてきました。そこでは県の絶滅危惧種のアカガエルを育て、メダカやホタル飼育してきました。しかし児童数の増大に伴いプレハブ校舎が建設されることとなり学年園は撤去されました。そこで、学校外の休耕田を学校ファームとしてお借りして、安行に残る唯一の田んぼの横の休耕田を、十数年ぶりに「田んぼビオトープ」として復活させました。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・5月14日 田んぼに肥料まき。18名
- ・6月4日 田植え 28名
- ・7月25日 田んぼ生き物調査 25名
- ・9月16日 稲架掛け台を完成 5名
- ・9月24日 稲刈り1回目 25名
- ・10月1日 稲刈り2回目 18名
- ・10月22日 稲刈り3回目 25名
- ・10月29日 レンゲソウの種まき 15名
- ・11月22日 安行小まつりで脱穀体験 約300名参加
- ・12月29日 収穫した稲藁を使って「しめ縄づくりとおもちつき」 81名

3. 活動の成果

十数年ぶりに休耕田を見事に復活させることができました。田んぼビオトープづくりにあたっては、地主さん、地域の農協、町会、学校、おやじの会など様々な方々に協力をいただきました。田んぼは日本型ビオトープと言われるように多様な生き物が生息していますが、除草剤を使わずに稲を育てました。そのために電動エアポートやアイガモロボットオカキを導入しました。アイガモロボットは子どもたちがプログラミングを使って動かしました。初収穫では4俵（1俵60kg）を超えて280kgぐらいいは収穫することができました。泥だらけの中の田植え、夏の生き物調査、秋の稲刈り、収穫と年間を通して子どもたちは田んぼづくりに参加しました。脱穀、精米体験もして、お米がどうやってできるのか、その苦労や米作りの大変さ、大切さを体験できたことが何よりの成果です。12月には毎年「しめ縄づくり」を行ってきましたが、今年は自分たちが育てた稲わらでしめ縄を作ることができました。



4. 今後に残された課題

稲刈りを終えた後、田んぼにはトラクターを入れて秋の耕耘を行い、レンゲソウの種を蒔きました。春には一面レンゲの花が満開になることと思います。レンゲソウは緑肥となり、空気中の窒素を土に入れてくれます。来年度は農薬だけでなく、化学肥料もなるべく使わずに稲を育てることが課題です。また一部「もち米」を育てる予定です。もち米の稲は丈が長く加工に適しています。育てたもち米でおもちつきをするだけでなく、その稲わらでしめ縄をつくります。また地域の伝統行事「安行原の蛇造り」でも、この田んぼで育てたもち米の稲わらを使ってもらえるようにすることが新たな課題です。

最後に今年度は小さな池を作りましたが、新年度は用水沿いに大き目の池を作りたくさんの生き物が棲めるビオトープ作りをさらに進めます。